

事業報告

第 5 分科会

学校教育・地域連携

テーマ	「結」学校・家庭・地域が協働し 子どもたちを共に育てる環をつなぐ地域連携活動		
趣旨	急速な少子高齢化が進む中、子どもたちを育てる社会環境も変化している時代。子どもを見守る親、地域においても価値観が多様化しています。子どもたちがふるさと・学校を愛し、近い将来地域の担い手となるよう、今まで築きあげてきたPTAの取り組みを活かし、これからの時代に合った大人も楽しめるPTA活動を共に学び語りあいましょう。		
会場	塩尻市総合文化センター	運営担当	東筑摩塩尻PTA連合会
参加人数	150人	子ども参加者数	10人
担当副実行委員長	山田 直幸	運営委員長	北沢 寿明

分科会総括

第57回日本PTA関東ブロック研究大会ながの大会第5分科会は、2025年10月18日に塩尻市総合文化センターで開催され、約150名が参加しました。大会スローガン「結」笑顔で未来をつくる～子どもたちと一緒にウェルビーイングの実現を信州から～のもと、学校教育と地域連携をテーマに、地域連携活動の実践方法、多様な価値観の理解、新しいPTA活動の提案が子どもたちも参加して議論されました。

長野大学社会福祉学部の早坂淳教授は、「どうすれば私たちはつながれるのか～個人と社会のウェルビーイングの実現を目指して～」と題し、現代社会におけるAIの急速な発展と人間のつながりの重要性、そしてPTAや学校教育の役割について深く掘り下げました。早坂教授は、AIが人間の知性を超える時代に突入しつつある現状を踏まえ、教育や社会のあり方を考える必要性を強調しました。また、OECDが提唱する教育の最上位目標として「ウェルビーイング（幸せ）」を紹介し、これを実現するための三要素として「繋がり」「やりがい」「自分らしさ（自律性）」を挙げました。講演の締めくくりとして、AIの時代だからこそ人間にしかできないことを考え、「セーフティゾーン」から「ストレッチゾーン」へと越境することの重要性が強調されました。

塩尻市立塩尻西部中学校の「孫の手プロジェクト」では、生徒が地域のボランティア活動を通じて地域とのつながりを深めています。広丘小学校の「ひろおか奨善塾」は、地域住民と共に学ぶ機会を提供し、参加者の増加に成功しました。聖南中学校では、伝統行事「どっこい清掃」を復活させ、地域との連携を強化しています。大町西小学校は、地域との絆を深める活動を行い、閉校を迎えるにあたりその重要性を再認識しました。新潟市立新通つばさ小学校は、新設校として地域とのつながりを築くためのイベント「つばさの日」を開催し、地域住民との交流を促進しました。

パネルディスカッションでは、地域連携の実践方法や多様な価値観の理解、新しいPTA活動の提案が議論され、早坂教授は「多様性の包摂」「子どもを真ん中にした対話」「市民としての責任」の重要性を強調しました。参加者は、地域と学校が協働し、子どもたちを共に育てる環をつなぐ地域連携活動の重要性を再認識し今後のPTA活動へ学びの多い分科会となりました。

開会式 写真

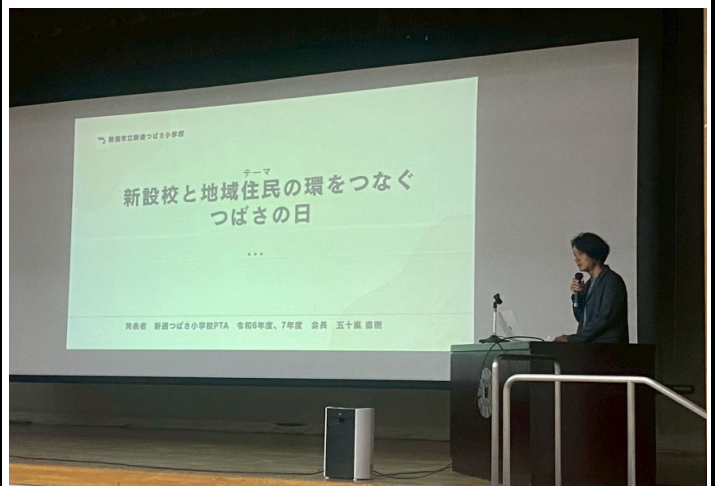
孫の手プロジェクト(塩尻市立塩尻西部中学校)の写真



講演会(早坂淳先生)の写真



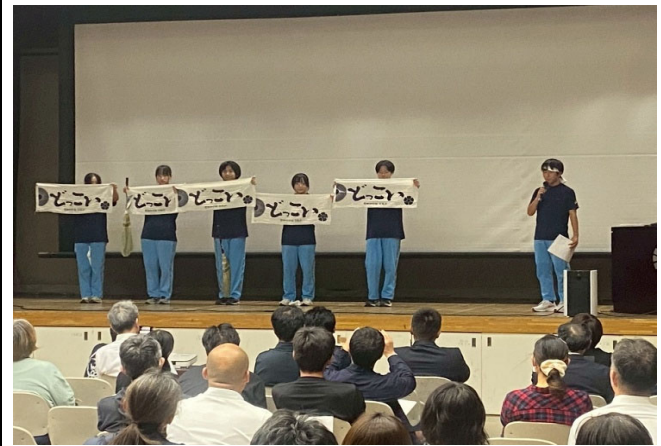
研究発表(新潟市立新通つばさ小学校PTA)の写真



研究発表(塩尻市立広丘小学校PTA)の写真



研究発表(筑北村立聖南中学校PTA)の写真



研究発表(大町市立大町西小学校PTA)の写真



パネルディスカッションの写真

